

学校評価

熊本県立玉名工業高等学校 令和6年度（2024年度）学校評価計画表

1 学校教育目標
教育綱領「明朗 誠実」「自律 協力」「勤勉 工夫」「健康 安全」のもと、生徒の豊かな感性や思いやりを育み、果敢に挑戦する態度を養い、企業や大学、地域との連携・協働により、地域の課題解決や発展に貢献し、地域社会に活力を与え、産業界の未来を担う人材を育成する。

2 本年度の重点目標
(1) 社会に適用する人間力(生きる力、考える力等)を持った人材の育成 (2) 確かな学力の向上と生徒の希望進路の実現 (3) 部活動・生徒会活動の活性化、心身の健全育成 (4) 学校の魅力化、地域とともにある学校づくり

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	信頼される学校づくり	安心安全な学校	・学校教育目標の浸透と工業教育の推進 ・ハラスメントや事故の未然防止	・互いに声を掛け、協力して目標に向かう学校風土づくり ・健全な組織運営と安全管理体制の構築	A	・学校教育目標の浸透と工業教育の推進については、例年非常に高い評価を得ており、これを継続していくことは本校の重要な使命の1つである。 ・いじめやハラスメント、問題行動の未然防止に努め対応を行い、人権意識を高める風土づくりを進めている。
		夢を実現する学校	・生徒にとって通いたい学校づくり ・資格・検定へ向けた取組の充実と様々なイベントへの参加や情報提供	・学力向上・ものづくり指導の取組による自己肯定感、自己有用感の育成 ・生徒への様々な情報提供及び進路希望等への組織的な支援	A	夢の実現に向けて一生懸命取り組む風土づくりはでき上がりつつある。ホームページや安心メール等で様々な情報を発信したこと、ものづくり教室の開催等への評価は高く、玉名工業高校の教育目標への理解等において高い水準を収めている。
	働き方改革の視点に立った学校運営	職員の負担軽減のための校務改革	・教師にとって働きやすい学校づくり ・超過勤務時間縮減のための校務の効率化と組織的な取組	・各種休暇を取得しやすい雰囲気醸成 ・衛生委員会等を活用した職員の業務状況確認の実施	B	教師が年休をとりやすい雰囲気や、働きたい学校づくりについては例年並みではあるものの、70%程度と他の項目に比べて低い。勤務時間縮減に向けては、様々な取組を実施しているが、引き続き推進していく必要がある。

	入学定員の確保	入学希望者の増加	・募集定員を満たせるように魅力発信の強化を行う。	・体験入学のPR活動 ・高校魅力化の向上と発信 ・中学校訪問による学校説明会の実施	A	体験入学、地域貢献活動、高校説明会、公民館講座、出前授業等外部へ向けたPR活動に力を入れ、前期選抜志願者数が増大した。
学力向上	教科指導の改善	・観点別評価による指導技術の向上 ・専門性の向上	・授業に関する興味関心の向上	・ICTを活用した授業評価の実施 ・さらなる授業改善と評価法の研修	A	ICTを活用した授業の実施で生徒達の興味・関心を深めることができた。職員スキルアップのための研修等を行った。
	基礎学力向上と積極的な学習への取組	・自学への取組向上 ・生徒の理解度の把握と学習意欲の喚起 ・学習習慣の定着	・ICTや一人一台端末の活用 ・DXハイスクールの推進 ・基礎学力の定着 ・学習への取組向上	・学力テスト等による基礎学力の把握と向上 ・DX化導入と大学との連携開始 ・授業時間数の確保 ・定期考査へ向けた環境づくり	A	スタディサプリを導入し、学習状態の把握や自学への取組向上が見られた。 DX化についても順次進めているが、工事等が進行中であるため、次年度以降も継続していく必要がある。
キャリア教育(進路指導)	職に就くことを前提とした進路指導の充実 キャリア教育の充実(人在から人材への高校3年間)	・インターンシップの充実	・インターンシップを終えての感想で、「充実していた」と答える生徒90%以上	・受入れ企業先の精選 ・事前指導(マナー講座)及び事後指導(振り返りシート・お礼状作成)	A	・受入れ企業先の精選を行った。また、実習内容に興味を持って取り組むことができたかという問いに、94.4%の生徒が取り組めたと答えた。
		・玉工手帳の積極的活用と活用能力の向上	・「玉工手帳」を活用し、予定を立ててから行動できるようになった」と答える生徒50%以上	・玉工手帳の活用法や進路情報の提供	B	・「玉工手帳を活用し、予定を立ててから行動できるようになった」と答える生徒が、50.0%と昨年度比9.0%上昇したが、以前として活用度は低い傾向にある。
		・生徒一人ひとりの進路実現	・進学希望者及び求職者の最終合格・内定率100%達成	・個別進学指導の計画及び実施 ・生徒及び教職員の企業説明会や進学説明会等への参加 ・全職員による面接指導の実施 ・進路講話及び進路説明会の実施	A	・学校紹介就職では、一次内定率が92.5%だった。就職希望者の進路決定率100%達成。 ・進学希望者の進路決定率は、令和7年1月29日現在、92.5%である。 ・進学ガイダンス、公務員ガイダンス、企業ガイダンスなど適宜行うことができた。

生徒指導	基本的生活習慣の確立	・制服の正しい着用と地域に信頼される生徒の育成 ・社会のルールを順守する意識の醸成	・服装や身だしなみの大切さについての理解（服装検査の合格率を各クラス90%以上とする） ・地域に信頼される行動の定着	・服装頭髪検査に向けた事前指導の徹底 ・HR指導及び集会等での指導	A	・服装頭髪指導の合格率の平均は、90.2%であった。頭髪の基準が変更になり、新年度当初は指導を受ける生徒数は多かったが、2学期以降は減少傾向にある。服装や身だしなみについての理解は深まっていると考えられる。
		校門付近でのマナー向上	・校門付近において通行の妨げになっている状況の改善	・下校指導の実施 ・担任指導や全校集会での周知徹底 ・スマートフォンの使用場所の検討	B	・週に2回、登下校指導を正門で行っているが、下校指導がない日や考査期間中等の全校生徒が一斉に下校する時に通行の妨げとなっている状況もある。 ・各部活動で終わる時間が異なる為、各顧問での呼びかけや注意喚起が必要である。
	交通安全教育の推進	自転車運転マナー及び原付バイク運転マナーの向上	・通学路における交通指導 ・自転車二重ロックの徹底 ・交通事故の前年比30%減 ・交通違反の30%減	・現地での登校指導の充実 ・交通委員による啓発活動及び職員による指導 ・原付通学生の定例会の定着と効果 ・原付免許取得者全員に対しての定例会の実施 ・担任指導や全校集会等による周知徹底	B	・登下校指導時に、安全運転や二重ロックの呼びかけを実施した。 ・自転車の事故は6件（1年生：4件、2年生：0件、3年生2件）で、昨年度より3件減少した。事故の内容は、わき道から出てくる車との接触事故が多く発生した。 ・原付バイクの交通違反は11件で昨年度より1件減少した。来年度は定例会の充実を図るとともに、定期的に通学路での現地指導を実施し、規範意識を高めたい。
人権教育の推進	人権教育の推進	・研修の充実と推進体制の強化 ・指導方法の工夫と改善 ・学習環境の整備・充実と指導者の育成	・学期に最低1回程度の校内職員研修を実施 ・人権教育便りの配付（学期に1回） ・校外の各種研修会への参加を推奨（2回以上参加率平均70%） ・学年に応じ、学期1回程度の効果的なLHRの実施	・人権教育推進委員会で、校内職員研修の内容を検討 ・人権啓発、同和問題への関心を持つよう、最近の問題を提示 ・校外研修における全職員への参加の呼び掛けとレポート研修におけるレクチャーの実施 ・人権教育推進委員会や学年会で内容を協議	A	・夏休みの研修会では、台風のため中止となった。2学期に研修会を行い、人権教育主任となつての取り組みや、職員への人権啓発や、校外研修に関しての話をを行った。人権子ども集会の視聴を全クラス及び全職員行った。地域で2回ある研究集会には70%以上の先生方に参加していただき目標を達成できてる。 ・全クラスで実施する人権LHRに関しては行事やスケジュールな

				・全職員によるレポート研修の実施		どを考えながら効果的に行うことができた。 ・全職員によるレポート研修に関しては進路指導や家庭訪問などの行事を考えると効果的に行うことができないことが課題として挙げられる。工夫・改善が必要である。
	学力保障及び進路保障の支援	確かな学力を身に付け、進路を保障する取組の強化	・全ての教科において人権同和教育の視点で学習指導、生徒指導を展開(就職内定率100%)	・進路指導部や各学年と連携し、全職員が生徒一人一人を大切にする学習指導、生徒指導の体制を強化	B	・多種多様な生徒の進路希望に対して、生徒と担任との面談時間を確保し、情報の共有に努めた。 ・就職内定率100%を達成した。
	命を大切にすることを育む指導	自己肯定感、自己有用感を高める指導の強化	・すべての教科で人権同和教育の視点から命を大切にする授業の展開	・HR活動や全教科での取組及びLHRにおける授業の実施(2回) ・人権教育推進委員会の実施	A	・第三次とりまとめを周知していることで人権に配慮した授業実践を行うことができている。また、生徒指導部及び保健部が行っているいのちの教育による講演会や性教育講演会などのいのちを大切にする取組も行われている。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針の推進	いじめにつながらない、学校全体の風土づくり	・全ての教育活動での注意喚起・情報提供 ・共有等の徹底 ・生徒の変化に気づき、変化を見逃さない職員間の協力体制の構築といじめを許さない体制及び環境づくり	・職員のいじめ防止研修を実施し、感性の高揚を促進 ・INI(いじめなくそう委員会)による啓発活動 ・スクールサインの投稿内容に対する組織的で素早い対応 ・いじめ防止対策委員会の実施(年3回)	A	・アンケートによるいじめの実態把握を行い、その結果をもとにいじめ防止対策委員会で検討し、早期に組織的な対応ができた。相談支援部及びSCやSSWとの連携ができた。 ・SNSでのトラブルやいじめ事案が発生した。学校配付タブレットの使用方法等と併せて、ICT推進部と連携して取り組んでいく必要があると感じた。 ・スクールサインへの書き込みは昨年と比べ減少した。 ・いじめに関する職員研修を実施した。いじめ事案に対して職員間で連携した対応ができた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域連携	「地域とともにある学校づくり」の取組	・保護者、地域住民、行政等からの学校への参画並びに支援体制を促進させ、信頼関係の深化 ・「社会に開かれた教育課程」の実現	・学校運営協議会の充実と協力体制の構築 ・社会に開かれた教育課程の実現に向けた保護者や地域住民との情報や課題の共有化	A	・学校運営協議会も3年目を迎え、委員様からの御意見や御協力をいただいている。 ・外部からの技術指導や、地域行政や産業界との連携においては評価も高く、社会に開かれた教育課程に向けて着実な歩みを進めている。

		ボランティア活動の推進	・ボランティアへの参加をとおして地域住民との連携 ・地域イベントやボランティア活動の案内と参加	・ボランティアをとおして学校と地域を繋げる活動の継続的な実施 ・生徒会、JRC部、有志による地域清掃活動の実施 ・地域交流活動の実施	B	・玉名市や社会福祉施設主催の複数回のボランティアに積極的に参加した。 ・玉工杯グランドゴルフ大会を開催し、地域住民の方々との交流を深めた。 ・生徒会、JRC部、有志による地域清掃活動を実施した（2月）
産業界や地域に貢献する人材の育成	ものづくり教育を通じた人づくり	産業界や地域との連携	・ものづくり教育の充実と職業人としての意識向上	地域の自治体や工業の関連企業との連携による技術力供与や実技指導等の実施（マイスター・ハイスクール等）	A	玉名市と連携した公民館講座や商業施設でのものづくり教室をはじめ、マイスターハイスクール導入年度として各科の取組が増えた。実習などの組み入れて生徒の知識・技術力の向上に繋がった。
		専門分野への知識や技能の深化	・ジュニアマイスター顕彰制度において連続して学校表彰を受ける ・ジュニアマイスター認定10%増	・ゴールド、シルバーだけでなく、ブロンズの認定の推奨 ・3年間の取得計画表の掲示 ・各種資格の周知 ・課外や模試の実施	A	ジュニアマイスターの前期申請では110名を超え、後期申請では30名を予定している（特別表彰者2名を含む）。技能士受験については昨年度より若干名多い合格者を輩出している。
		魅力発信	・学校の日々の様子を定期的に更新 ・中学生が入学したいと思う学習内容やものづくりの発信 ・地域イベントへの参加を通しての本校の魅力発信	・ホームページやInstagramによる情報発信 ・中学生に本校の魅力ある学習内容を発信 ・地域イベント等に参加し、メディア等を活用したPR活動	A	ホームページやInstagramで情報発信を行い、多くの閲覧を得ている。ものづくりを中心として地域イベント等に参加、多くの来場者があり盛り上がった。メディアへの情報発信も行い報道にも多く取り上げられた結果、前期入試への出願者は昨年度より増加している。
	部活動の振興	魅力ある部活動づくりとその活性化	・部活動の加入率の向上 ・各種大会において上位入賞及び上位レベルの大会への出場	部活動指針に基づいた長期、中期、短期の目標を設定及び明確化・生徒の自主性を伸ばす計画的活動の実施	A	・体育系、文科系共に高い加入率となっている。 ・各部活動が部活動指針に基づき計画的に活動した結果、大会等での上位入賞が増加。活動意欲等や部の活性化等につながった。
		部活動における安全管理	・毎日の健康観察の実施及び徹底 ・活動場所の安全管理と整理整頓	部活動顧問会を定期開催することによる情報共有及び安全管理	B	定期的に顧問会の開催を行い、安全面や安全管理（計画等）等に対する呼びかけはできたが、生徒についての情報共有等には至らなかった。

			・活動中のけがの予防及び防止の徹底	・毎月の活動内容の明確化及び休養日の定期的な設置 ・救急処置講習会の実施等、生徒の安全意識向上の推進		・救命講習会を行い、生徒・職員の安全意識の向上に努めた。
保健管理	安心安全な学校づくり	安心安全な学校づくりのための環境整備	・安全点検実施100%	・毎月1回の安全点検 ・安全点検結果を事務室と共有 ・事務室との連携による早期整備・修繕等の実現	A	・毎月1回の安全点検を実施した。結果を事務室と共有し、整備や修繕等を可能な限り実施することができた。
	心身の健康を育む	健康に対する意識や自己管理能力の育成	・朝の健康観察の徹底 ・保健だよりの健康情報の提供 ・部活動生への救急処置講習会の実施	・健康に関する生徒情報の共有 ・保健だよりの学期ごとの発行 ・体育会系部活動生対象の救急処置法講習会の実施	A	・職員間で健康に関する生徒情報の共有ができた。 ・保健だよりの学期ごとの発行をすることができた ・体育会系部活動生対象の救急処置法講習会の実施することができた。
		特別支援教育を含めた相談活動の充実	・課題を持つ生徒、支援の必要な生徒の早期発見・早期対応 ・特別支援教育に関する職員の共通理解と実践	・職員研修の実施 ・生徒状況把握のための各種調査の実施 ・個別的教育支援計画に基づく情報共有と支援の実施 ・SC・SSWや関係機関との連携	A	・気になる生徒のチェック項目を増やし、より詳細な情報共有を図ることができた。 ・自治体の福祉課との連携や入学前相談等に幅広く対応した。 ・本人と家庭及び学校が情報を共有して問題解決に向かうよう関係機関と細やかな連携を行った。
		・自尊感情を高めるための取組及び他人への思いやりを持つ生徒の育成 ・命あるすべてのものを大切にする心の育成	・いのちを大切にする教育の実施 ・ストレス対処教育の実施	・各学年対象の講演会の実施 ・自らSOSを出す方法と傾聴方法の授業を実施 ・相談室だよりを活用したストレス対処教育の実施	A	・対面での講演会を学年ごとに実施し、命の大切さについて考えることができた。 ・LHR等を活用し、SOSの出し方などについての授業を実施し、ストレスに対処する力の構築に努めた。 ・SOSを発信しやすい関係性の構築、ストレスマネジメント、傾聴スキルなどに関する授業を実施した。 ・SC面談等についても希望を募り、生徒情報等の共有に努めた。

4 学校関係者評価

- ・家庭学習については、小・中学校でも「家庭学習の充実と習慣化」が1つの重点項目となっている。個人に合わせた学習システム スタディー・サプリの使用などの取組みは大変良いと感じた。
- ・国公立大や海外の大学、就職においてもほぼ100%の実績は素晴らしいものがあると感じました。今後も維持してほしい。
- ・交通事故や特別な指導の件数は若干減少しているものの、多いと感じた。
- ・各科等においては様々な取組みがあり、各種コンクールでの入賞等、素晴らしい実績を残しており、今後も優秀な成績を残せるよう、生徒ファーストで指導にあたってほしい。
- ・生徒アンケートにおいて、玉名工業高校に入学して良かったかの問いに対し、そう思わない生徒が15%いることが分かる。なぜ、そう思わないかの理由を把握することにより、今後の改善点が見えてくると思う。アンケート記述等で理由を把握し、魅力ある学校づくりに努めてほしい。
- ・次年度は、高校魅力化コンソーシアムモデル構想事業も開始する予定であるため、チーム玉名として、マイスター・ハイスクール事業に加え、コンソーシアム事業への積極的な参画を期待している。
- ・ボランティア活動の評価が下がったようだが、十分な活動が合っていると思う。献血や清掃活動、各種広報手段等を利用し、行っていることを自分たちで認識できるようにして、もっと生徒に自信を持たせてほしい。教職員も一体となって意識を高めてもらいたい。
- ・総合的に「勝ち組」の育成に重視している感がある。就職も含め、これが本校の特色でもあり、OBである私達の高校時代からそうであったと思う。しかし、これからは、「勝ち組」でない人にも優しく接することができる人材育成も視野にいれていかなければならないと思う。多くのハラスメントが存在しているが、社会人となってその渦中に飛び込んでも、柔軟に立ち振る舞いができる素晴らしい社会人を輩出してほしいと思う。
- ・マイスター・ハイスクールをはじめとした特色ある取組みがなされている。「選ばれる学校」としての視点で工夫されていて、生徒が主体となる取組みも多い。本小学校の「ものづくり教室」にも来てもらったが、生徒さんは優しく、はきはきと進行しており、感心した。
- ・充実した教育活動が行われていると感じる。たくさんの活躍が見られるので、さらに学校の魅力を発信、PRすると、中学生の興味も高まると思う。
- ・近年、子供たちが進路面であったり、部活動の面であったり、様々な分野で活躍できているのは、子供たちの頑張りではあるが、学校の取組む姿勢や先生方の熱意からだと感じている。
- ・最終的に進路を決定するのは生徒だが、地域で生まれた生徒を地域で育て、地域で活躍するというサイクルが上手くつながるといい。そのためにマイスター・ハイスクール等の取組みで地域企業との結びつきが一層強くなると良いと思う。
- ・生徒指導の面でも、地域で問題行動等に気が付くこともある。できることがあれば、一緒に教育していきたい。

5 総合評価

(1) 全体において

自己評価については、学校評価アンケート29項目中、生徒、保護者、職員ともに90%を超えた項目が10項目と、ある程度高い結果を残すことができた。家庭学習について、生徒と教職員の評価が上がった。体育大会を1学期に移動したことにより、2学期に落ち着いて計画的に学習できたことが、この結果につながったと考えられる。

保護者からの学校評価の数値でボランティアが下がった。本校生は継続的にボランティアを実施しているので、広報活動にも力を入れていきたい。

特別支援教育を保護者との連携において教職員のアンケート評価が上がっている。教職員の努力への相互評価だと感じる。

(2) 本年度の重点目標

(1) 社会に適用する人間力(生きる力、考える力等)を持った人材の育成

専門教育や産業教育、地域との連携、資格試験への取組みを通して、社会に通用する人間力を持った人材の育成を進めている。また、基本的生活習慣やマナー、交通安全の意識向上に努めている。生徒の評価において、交通安全・マナーについては90%を超えているが、基本的生活習慣については更なる取り組みを進めたい。

(2) 確かな学力の向上と生徒の希望進路の実現

進路情報の提供やキャリア教育において高い評価が得られた。また、３年生の進路決定率も９８％となっている。ただし、この項目については課題もあり、家庭学習は昨年度より数値が上がったものの、十分にできなかったと答えた生徒も多かった。

(3) 部活動・生徒会活動の活性化、心身の健全育成

部活動の活性化、健康意識、いじめ対応、命の教育については、高い評価を得ている。生徒会を中心とした学校行事についても、滞りなく実施できた。

(4) 学校の魅力化、地域とともにある学校づくり

様々な機会でものづくり教室や地域のニーズに応じたものづくり、寄贈を行った。また地域の研究発表会に参加する等して地域との連携を図った。Instagramやホームページを通した積極的な情報発信に努めている。

6 次年度への課題・改善方策

○家庭学習、学習活動への意欲的な参加において、今年度は多少評価が上がったものの、依然として低い傾向がある。スタディー・サプリー等で、学習習慣の確立に努めたい。

○玉入手帳の活用についても対応が求められる。生徒の「書く」という行為へのハードルが上がってきており、運営協議会においてもタブレットを併用しつつも「書く」ということへの継続的な指導を求める声が上がった。

○教職員アンケートの「働きたい学校である」「休暇を取りやすい」項目の肯定的意見が７０％程度なので、衛生委員会等を通じて更なる対応を進めたい。

○定期考査に落ち着いて取り組ませるために、考査期間中の朝掃除をカットしたところ、教職員アンケートの「清掃活動」の数値が下がったため、考査期間中もきれいな学校を保つ方法を保健部とともに検討していく。

○学校の魅力化について、引き続き、今年度Instagramやホームページによる情報発信に力を入れ、保護者から高い評価をいただき、志願者数増に結び付いたのではないかなと思う。まだ、定員に満たないので、次年度以降、さらに本校の発信が中学生に届くような方法等を模索する必要がある。